加藤敬弘教授定年退職記念号に寄せて

経済学部長 石川 弘 道

今年もまた先輩を送る時がやってまいりました。加藤教授の定年退職記念号に惜別の一文を記すに際し、先生のお名前の「加藤敬弘(かとうたかひろ)」をおりこんで、一首詠うこととしました。

語りたる 永久のまことの 美しさ 高き理想と 広き小で

加藤教授といえば「学生部長」、学生部長といえば「加藤教授」と言ってよいほど、長い間学生部長を務められました。その期間は86年から94年までの4期8年連続であり、その前には学生委員長も務めておられます。

学生部長として学生指導に当たられるその姿は、時に厳しく、時に優しく、 常に学生の現在と将来を見据えておられたように思います。その時、学生た ちに語られる様子を先の歌に集約したつもりです。

学生部の管理職としては他に国際交流委員長を、教務関係の管理職としては教務部長や経済学科長を、さらには附属産業研究所所長や評議員として研究や大学運営の中心的職務を長期間務めておられます。まさに本学には欠くことのできない存在であったと思います。

研究面では、エコロジーからの持続性と経済的(人間中心)持続可能性の狭間にあって、経済発展と環境の保持との関係を主要テーマとして、環境経済学における持続可能性に関する諸問題を研究されています。また、教育面では「経済原論」、「経済変動論」を中心に近代経済学の基礎と応用を学生たちにわかりやすく講義されてこられました。

加藤先生の私的な面について語るほどのお付き合いはないのですが、お酒をこよなく愛される一方、ボーイスカウトの少年たちと太陽の下で汗を流されるなど昼夜を問わずエネルギッシュな方であると認識しています。

加藤先生には研究・教育・学生指導のいずれにおいても、常に高崎経済大学の発展を願う姿勢が基本にあったように思われます。それは先生が本学の

卒業生であることからくるものと推察されます。その高崎経済大学を1964年3月に学生として巣立ち、2006年3月に今度は教授として2度目の巣立ちをされます。加藤先生、長い間ご苦労様でした。先生には、退職後も特任教授として本学の教育にお力をお借りすることになります。宜しくお願い申し上げると共に、ますますのご研鑚を期待しております。